

日本美術の展示：ロシアからの視点 —東洋と西洋の間^{はざま}—

アイヌーラ・ユスポワ

プーシキン美術館 東洋絵画シニア・キュレーター、ロシア



略 歴

プーシキン美術館東洋絵画シニア・キュレーター。2007年より国立プーシキン美術館勤務、2010年から2016年まで当美術館東洋絵画部長を務める。モスクワ大学美術史学部（1976年から1981年まで修士課程および1990年から1993年まで博士課程在籍）卒業後、2003年から2007年までクレムリン博物館、1981年から2003年までロシア国立東洋美術館ほか、モスクワの博物館・美術館での勤務を経験。ロシアの博物館・美術館において企画担当した日本美術の展示会のうち、近年では、プーシキン美術館にて「18世紀から19世紀の日本の版画—プーシキン美術館コレクションから（Japanese Prints of the 18th-19th Centuries from the Collection of the State Pushkin Museum of Fine Arts）」（2008）、モスクワクレムリン博物館・東京国立博物館主催「サムライ—日本の武家の宝物：東京国立博物館コレクションから」（2008）、プーシキン美術館・楽美術館・国際交流基金主催、在ロシア日本国大使館共催、京都国立近代美術館企画協力「楽—茶碗の中の宇宙」（2015）、プーシキン美術館・東京国立博物館・文化庁主催、千葉市美術館・板橋区立美術館特別協力「江戸絵画名品展」（2018）がある。

モスクワで最も重要な日本美術コレクションは、プーシキン美術館に収蔵されている。同美術館の日本美術コレクションの大半は、もともとロシア海軍士官セルゲイ・ニコラエビッチ・キターエフ（1864-1927年）の所蔵品だった。キターエフは1878年にサンクトペテルブルクの海軍大学校に入学し、1881年に卒業して軍役についた。その後1885年に外国航路勤務となり、10年以上にわたって、高速帆船ヴェストニク号、フリゲート艦ウラジーミル・モノマフ号、巡洋艦アドミラル・コルニロフ号をはじめ、日本の近海を航行する船舶に乗務した。1909年には卓越した働きによって大佐に昇進し、軍最高の栄誉を授けられている。サンクトペテルブルクに戻ったあとも海軍関係機関に勤務していたが、1912年頃に健康を害して退職した。

キターエフは日本美術にすっかり魅了されて、当時かなりの数の美術品を収集した。そうした作品は「…東京、京都、大阪、横浜、神戸など、さまざまな町や村で」購入したもので、「数年のあいだに私の代理人はおそらく日本全国を旅してまわっただろう」と、書き記している。また、尾形月耕など、何人かの日本の芸術家とその家族のもとを訪ねることもあった。岸駒^{がんく}の子孫と接点を持ったことは、特に興味深い。

セルゲイ・キターエフが書いた覚書によれば、彼のコレクションは約7,000点の作品で構成され、掛軸、巻物、屏風に描かれた276点の絵画、4,000点の木版画、約100点の版本、1,900点の水墨画やスケッチ、830点の日本画家のリトグラフが含まれている。また、180点のポスターおよび1,300点の写真もある。

さらに、コレクションの一部は紛失したか破壊された可能性もある。

キターエフのコレクションの最初の展示会は、1896年にサンクトペテルブルクで



図1 2018年 江戸絵画名品展
プーシキン美術館・東京国立博物館・文化庁主催、千葉市美術館・板橋区立美術館特別協力
135点

Fig.1 2018. Masterpieces of Edo Paintings and Prints
Organizers: The PMFA, the Tokyo National Museum, the Agency for Cultural Affairs, Japan, with the special participation of the Chiba City Museum of Art and the Itabashi Museum of Art. 135 pieces

開催された。サンクトペテルブルク芸術アカデミーの後、1897年にはモスクワの歴史博物館でも展覧会が開催され、そこではキターエフ自身が日本美術に関する講演を数回行っている。ポーツマス条約締結後の1905年から1906年にかけての冬には、三度目の展覧会がサンクトペテルブルクのリョーリフ協会で開催された。コレクションの最初の目録は1896年に、その改訂版は1905年に発行された。

1916年、病気で海軍を退役したキターエフは、治療のために外国に行くことを決めた。その時、モスクワのルミャンツェフ美術館に保管するよう手配されたコレクションは、その後1924年にプーシキン美術館に移管された。

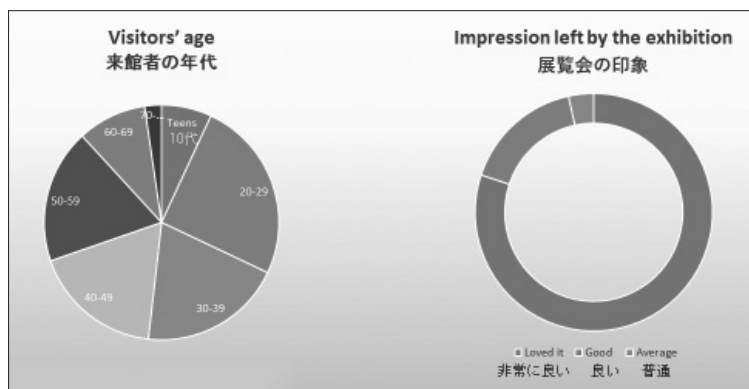
キターエフが1916年に日本に移り住むと、翌1917年にロシアで共産主義革命が起きた。日本でのキターエフの暮らしに関する情報は、1918年10月16日付の日本の新聞「横浜貿易新報」に掲載されたキターエフと彼のコレクションについての記事と、1927年に横浜で死亡したという短い情報のみである。彼がロシアの土を再び踏むことはなかった。

プーシキン美術館は当初、皇帝アレクサンドル三世の名を冠してモスクワ大学付属の大学教育センターとして設立され、1912年5月に広く一般に公開された。

絵画と版画の主要なコレクションがこの美術館に登場したのはかなり時を経てか

図2 すべての年代のロシア人が日本文化に興味を持っている。80%の来館者が展覧会に最高評価を付けた(出典：来館者アンケート)

Fig.2 Russians of all ages are interested in the culture of Japan, 80% gave top marks to the Exhibition (Source: visitor's questionnaires)



- "I would like to immerse myself in Japanese culture and learn more"
- "This exhibition is one of the brightest events in the cultural life of Moscow"
- "Delight! Impressive harmony, diversity, contrasts"
- "Japan is a magical country with beautiful art"
- "SHOCK! Is not very familiar and quite unusual"
- "Beauty is hidden, not on display"
- "The exhibition helped me to better understand evolution of Japanese art"
- "Amazing execution. It frees the head from unnecessary thoughts"
- "The exhibition captivates and carries away into the world of fairy tales and dreams"
- "The art of Japan is different from the one of Europe. The exhibition gave a good chance to meet it"
- "Japanese art reflects the harmonic soul of this nation. Through this exhibition you see the life of Japanese people"
- 「日本文化に夢中になってもっと知りたい」
- 「面白い！素晴らしい調和、多様性、対比」
- 「日本は、美しい芸術のある魅惑的な国」
- 「衝撃的！非常に見慣れないというものでも、珍奇なものでもない」
- 「美は、秘められていて、これ見よがしではない」
- 「この展覧会によって、日本美術の発展をより理解することができた」
- 「素晴らしい出来栄。余計なことは頭からすっかり消えてしまった」
- 「この展覧会は、魅惑的で、おとぎ話や夢の世界にさらっていくようだ」
- 「日本美術は西洋美術とは異なっている。この展覧会は、日本美術に出会う良い機会となった」
- 「日本美術は、調和のとれた魂とこの国とを反映している。この展覧会を通して、日本の人々の生活を知ることができる」

図3 ロシア人の人々は、日本とその豊かな文化についてもっと知りたいと思っている
来館者からのコメントの抜粋

Fig.3 Russian people would like to learn more about Japan and its rich culture
Some quotes from the visitors

らで、1917年のロシア革命後だった。ほぼすべての個人コレクションがソビエト政府によって没収され、さまざまな国立美術館に送られた。1923年、アレクサンドル三世美術館はモスクワ大学から独立し、1937年にアレクサンドル・プーシキンにちなんでプーシキン美術館と改名された。

第二次世界大戦後にプーシキン美術館で開催された日本美術に関する展覧会および関連出版物は、ほとんどがビータ・ヴォロノワ博士 (Dr. Beata Voronova : 1926-2017年) によるもので、博士は1950年代半ばから2007年まで、東洋の絵画および版画コレクションの主任学芸員を務めた。

最近開催された日本美術の展覧会

- 2008年。『Japanese Woodcut Prints of 18 - end of 19 centuries from the Pushkin Museum of Fine Arts (プーシキン美術館の18世紀から19世紀末までの日本版画)』。コレクションの総作品目録出版記念。250点
- 2015年。『Raku Ware: Cosmos in a Tea Bowl (楽茶碗：茶碗の中の宇宙)』
プーシキン美術館・エルミタージュ美術館・楽美術館・国際交流基金・京都国立近代美術館主催。170点
- 2017年。『Yasumasa Morimura. The history of the self-portrait (森村泰昌：自画像の美術史)』(プーシキン美術館)
国立国際美術館(大阪)、原美術館(東京)、京都国立近代美術館(京都)のコレクション、および森村泰昌個人のコレクションから、80点以上を展示。
- 2018年。川俣正。『Para-site Project (パラサイト・プロジェクト)』(プーシキン美術館)
- 2018年。『Masterpieces of Edo Paintings and Prints (江戸絵画名品展)』
プーシキン美術館・東京国立博物館・文化庁主催、千葉市美術館・板橋区立美術館特別協力。135点